

2010年7月1日

2010年度 日本化学繊維協会活動について

1. 基本認識

我が国経済は、2008年秋に発生した世界同時不況の影響を受け、過去に類を見ない急激かつ大幅な景気の悪化を経験した。政府の様々な景気刺激策、各企業の懸命な経営努力で、昨年春以降はやや持ち直しの動きが続いているものの、本格的な回復には至っていない。

一方、我が国の繊維産業は、国内ミル消費の減少や、輸出の伸び悩みなど様々な問題に直面しており、回復のテンポも遅く、大きな転換期を迎えている。会員各社も、不採算部門からの撤退や生産拠点の海外移転といった事業構造改革を推し進めているが、厳しい環境が長引く中、今後も更なる構造改革、新商品・新技術開発、新市場開拓、環境問題や製品安全への取り組み、FTA/EPAをはじめとする通商問題への対応などに、業界としてこれまで以上に取り組んでいく必要がある。

日本化学繊維協会は、この不安定な環境下の舵取り役として、会員各社のこれらの動きと連動して、今まで維持してきた機能を活用し、繊維業界内外への働きかけを積極的に行い、繊維産業の事業環境整備を推進する。

具体的には、

会員共通の課題に取り組むと同時に、共通利益に資する政策を立案し、行政に働きかけ、その具現化に注力する。

激しく変化するグローバルな市場動向、事業環境に関する情報を的確に把握し、提供する。

上記の認識と方針に沿って、今年度の協会活動テーマとして以下を掲げることとする。

2. 今年度活動テーマ

アジア新規市場調査

繊維業界を取り巻く環境が劇的に変化する中、会員各社は特に内外の需要構造の変化に対応することが急務となっている。先に経済産業省がまとめた「今後の

繊維・ファッション産業のあり方に関する研究会」の報告書にあるように、今後は日本の化合繊維メーカーが保持するトップレベルの技術を幅広い分野に広げ、また社会のニーズを付加価値に変える方向で、新規市場を開拓する必要がある。

そのために、中国を中心とするアジア成長市場を内需と捉え、「衣料分野」をはじめ、将来的に拡大が見込まれる「環境関連分野」、「医療・ヘルスケア分野」を中心に、当該分野のユーザー企業が真に要望する内容を調査、把握し、繊維材料・技術が持つ潜在能力とマッチング(川上シーズ、川下ニーズ接点の洗い出し)を図ることで、繊維素材需要の拡大を目指す。

また、特に中国市場において高機能、高感性な素材が要求されるアッパー・ミドルゾーンの衣料市場を調査し、日本のテクノロジーで攻略する事業機会を見出す。

通商問題対応

ASEANを中心にFTA/EPAの発効が相次いでおり、東アジア自由貿易圏が形成されつつある。各種統計やアジア化繊産業連盟の枠組みを活用しながら、FTA/EPAの発効前後の貿易動向の差異や各国の内需の実態を調査、分析し、会員各社へ情報提供を行うとともに、2011年開催予定のアジア化繊産業会議での日本サイドからの主張とすべく、共通課題の抽出、取りまとめの準備を進める。

3. 予定する主な会合

2010年	7月	1日	臨時総会・本委員会
	10月	29日	本委員会
2011年	1月	19日	本委員会
	4月	26日	定時総会・本委員会(大阪)

(予定される国際会議)

2010年11月(予定)	日本繊維産業連盟が主催する「日韓中三国繊維産業会議(仮称)」に出席予定
2011年(予定)	第8回 アジア化繊産業会議(於:台湾)

以上